



闲

気軽に読んで日本を知ろう

读日本

文化·习俗

陈风 李丽桃 / 主编

董继平 / 副主编



天津大学出版社
TIANJIN UNIVERSITY PRESS



日汉双语读物



闲

気軽に読んで日本を知ろう

读日本

文化·习俗

陈风 李丽桃 / 主编

董继平 / 副主编



天津大学出版社
TIANJIN UNIVERSITY PRESS

内 容 提 要

《闲读日本》是一套供所有喜爱日语的人了解日本的休闲读物。本册收录了40篇精美短文。读者通过轻松阅读这些题材丰富、风格各异的美文能够感受到日语的魅力，并透过传统文化、风俗习惯、审美意识、行为方式等诸多方面，了解多姿多彩的日本和活灵活现的日本人。

图书在版编目（CIP）数据

闲读日本：全3册：日文/陈风，李丽桃主编．—天津：

天津大学出版社，2011.12

ISBN 978-7-5618-4234-8

I. ①闲… II. ①陈… ②李… III. ①日语—语言读物
②日本—概况 IV. ①H369.4: K

中国版本图书馆CIP数据核字（2011）第264701号

出版发行 天津大学出版社

出 版 人 杨欢

地 址 天津市卫津路92号天津大学内（邮编：300072）

电 话 发行部：022-27403647 邮购部：022-27402742

网 址 publish.tju.edu.cn

印 刷 昌黎太阳红彩色印刷有限责任公司

经 销 全国各地新华书店

开 本 169mm×239mm

印 张 38

字 数 906千

版 次 2012年1月第1版

印 次 2012年1月第1次

定 价 75.00元（全三册）

凡购本书，如有缺页、倒页、脱页等质量问题，请向我社发行部联系调换

版权所有 侵权必究

前 言

这是一套供所有喜爱日语的人通过轻松阅读来了解日本的休闲读物。全套书共由一百多篇精心挑选出来的精美短文构成，以丰富的题材和不同的体裁及风格的文章，让您全面感受日语的魅力，并通过传统文化、流行时尚、风物情感、社会生活、审美意识、行为方式等方方面面，展现一个多姿多彩的日本和活灵活现的日本人。

由于地理上的渊源，人们常用“一衣带水”来形容中日两国之间的关系。但事实上，由于自然环境、社会形态等各方面的不同，日本民众从生活方式到意识形态，都与中国人有着较大的差异。这套书的每一篇短文正是通过一个个侧面来展现日本民族的这种独特性。

作为日汉双语读物，本套书具备了以下几大特点。

首先，题材丰富，篇幅精练。如果把日本比做一座高大的写字楼或公寓，那么每篇短文就像一扇扇的小窗，读者可从不同的角度和侧面全方位地透视日本社会和日本人，从中获得一个立体、生动的日本印象。

其次，内容生动，趣味性强。本套书不同于一般教材，我们的首要目的在于让读者享受阅读日语的乐趣，因此在选材时尽量避免生硬枯燥的介绍式文章，而更加注重文章的可读性。

第三，体裁、语言风格及作者的多样化。语言因时代、使用者年龄及职业等而不同，本套书除注意采用规范和有品位的日语外，也适当选用了一些在语言上独具特色、富有现代生活气息和个人风格的文章。从作者来看，既有著名学者和文化界人士，也有当下走红的时装设计师，乃至一般的民众，可谓“雅俗共赏”。

此外，为了适合更多读者的需要，本套书选择的日语短文难度适中。在译文上，也颇费匠心，在准确把握原意和帮助读者理解原文语法结构的同时，尽可能体现日汉两种语言在不同文化和社会背景下所具有的风格迥异的独特“韵味”。

不少喜爱外语并取得成就者的经验也告诉我们，阅读是不断增强自身语

言兴趣和培养语感以及扩展知识和视野的重要手段，而其中既轻松又有效的方法便是本套书名中的“闲读”。我们所期待的“闲读”就是，通过在“悠闲适得”的片刻时光中阅读轻松有趣的话题，来获得一份耐人寻味的深刻感悟。如今我们生活在一个变幻纷繁、运转急速的时代，相信这套读物定能为喜爱日语的你在繁杂忙碌之余送上一份充实、惬意的时光，并使你获得精神上的轻松愉悦和情感上的享受与共鸣。

在这套日汉双语读物的编译过程中，承蒙闫翔先生、李泓冰先生和郭洁威女士的大力协助，他们为编译工作提供了许多建设性的意见，在此一并深表谢意。同时，感谢天津大学出版社使这套书得以问世。

编译者

2011年8月

目 录

「桜」への愛着 咲く姿も散る姿も美しい	/1
钟爱樱花 花开花落皆美丽	/4
庶民の酒場 居酒屋ののれんをくぐってみよう	/6
百姓的酒馆 掀开“居酒屋”的门帘	/8
「いただきます・ごちそうさま」	
にこめられる感謝の心	/10
“いただきます・ごちそうさま”	
中包含的感恩之心	/12
日の丸・君が代 なぜ、日本を代表するようになったのか	/14
太阳旗・君之代 为何成为日本的象征	/16
ノーチップ 日本的サービス精神の現れ	/18
不收小费——日本式服务精神的体现	/20
気をつけましょう 玄関先でのマナー	/22
提醒您注意玄关的礼节	/24
忘年会——年末の風物詩	/26
忘年会——岁末的一道风景	/28
「先生」いろいろ	/29
“先生”种种	/32
人と人の絆を強める日本の弁当文化	/34
加深人与人情感的日本“弁当”文化	/37
「寝たきり老人」と「座りきり老人」	
小さな異文化体験から	/40
“卧床不起的老人”和“坐椅不起的老人”	
细小的文化差异体验	/42
紹介のマナー なぜ、目下のものが先なのか	/44
介绍的礼仪 为何“自下而上”	/46
日本のバス・ガイド——旅行文化の担い手	/48
日本的巴士导游——支撑旅游文化的中坚力量	/51

「花は人の心」 華道の世界へご案内	/53
“花乃人心” 带您走进“華道”的世界	/56
「小さくたんで大きく使う」——知恵ある日本の収納	/58
“收起来小、用起来大”——日本人聪明的物品收放法	/61
「色」と「カラー」 日本人の色彩感覚	/63
“色”与“カラー” 日本人的色彩感觉	/66
ご存知ですか 箸にも色々なタブーがある	/68
你知道吗？用筷子也有各种禁忌	/71
ダークスーツ なぜ、日本人に似合うのか	/73
深色西装为何适合日本人	/77
ニッポンのお正月	/79
日本の正月	/82
「座る」文化から「立つ」文化へ	/84
从“坐”到“站”的文化演变	/87
しつけ 伝統を忘れてはならないわけ	/89
家教 传统之所以不能忘	/91
花見 庶民的レジャーとしての機能	/93
赏花 大众化休闲之功能	/96
お辞儀と握手 相手への敬意から生まれた日本の挨拶	/98
鞠躬和握手——表示敬意的日本行礼方式	/101
NHK紅白歌合戦と大河ドラマ——	
日本を代表する人気テレビ番組	/103
NHK 红白歌会和大河剧——	
日本具有代表性的大众电视节目	/106
挨拶言葉の意味の由来	/108
问候语意思的由来	/110
いけばなと日本人のしぐさ 「控えめ」の美とは	/112
插花与日本人的举止形态 何为“含蓄之美”	/115
あいまいな日本人、マイペースなアメリカ人	/117
含糊不清的日本人、自行其是的美国人	/120
茶道——日本文化の総合芸術	/122
茶道——日本文化的综合艺术	/125
結婚式&披露宴雑感	/127
婚礼婚宴之杂感	/130

尾頭つき	なぜ、めでたいのか	/132
有头带尾的鱼	为何象征吉祥	/134
おみやげ	経験と喜びの共有を大切に	/136
礼物	注重经历和喜悦的共享	/139
作法	万国共通のものはあるだろうか	/141
礼节	有各国通行的吗?	/143
日本家屋	究極のエコ建材	/145
日式房屋	终极环保建材	/147
折り紙	世界に誇る日本人の器用さ	/149
折纸	日本人的灵巧为世人所赞赏	/151
	日本人はなぜ風呂が好きなのか	/153
	日本人为何喜爱泡澡	/156
温泉映える女		/158
温泉映照下的女人		/161
	知っておきたい和食の基本	/164
	应当知道的日本料理常识	/167
東京の夏を彩る賑やかなお祭り		/169
热闹的“お祭り”	为夏日的东京增辉	/172
	秋葉原を歩きまわるのがすき!	/174
	我爱逛秋叶原	/176
「たたむ」に見る日本人の空間感覚		/177
从“折叠”看日本人的空间意识		/180
	海外からの寿司留学生在急増中!	/182
	来自海外的“寿司留学生”迅速增加	/184



「桜」への愛着 咲く姿も散る姿も美しい

毎年3月から4月にかけて、日本中に桜の開花情報が飛び交います。人々の話題はいつ、どこに桜が満開になるか、いつ花見へ行くべきか、期間限定の桜風味の和菓子^{ふうみ}はどの店がおいしいか、お天気や気温の変化がどうであるか、といったことで盛り上がります。桜は日本文化の中でとても重要な存在であり、文学作品や流行歌、日常で使われることわざなど、さまざまなところにその影響が見られます。

文化学者によると、日本独特の文化である花見とは、群れ咲く「群花」^{むぐんか}の鑑賞、花の下での「飲食」、大勢で楽しみ騒ぐ「群集」^{ぐんしゅう}の三要素によって成り立つと定義されています。花見の文化は古代からありましたが、安土桃山時代（1568～1600年）に豪華絢爛な宴が行われるようになり、江戸時代（1603～1867年）に入ると貴族から庶民にまで広まりました。現在では、新入社員や大学サークルの新入生歓迎会として欠かせない行事になっています。桜の木の下でお弁当を広げ、杯^{さかずき}を交わしたり、歌ったり、踊ったりします。また、知らないグループとも気軽に声を掛け合い、食べ物を交換したり、一緒に盛り上げたりして、時には大宴会になることもあります。

桜は日本固有の花ではなく、アジアやヨーロッパにもあります。しかし、日本のような花見文化は他のどこにもありません。なぜ日本人は桜にこだわるのでしょうか。その理由には諸説があります。その一つ、桜のように、つぼみでも、満開の姿でも、桜吹雪^{さくらふぶき}の姿でも、見る者の心をこれほど華^{はな}やがせる花はないと多くの人は言います。また、桜は一輪一輪の小^{いちりん}

さな花は目立たないけれど、一本の木に花が何十万と咲き誇り、さらに林のように連なると、表現しがたい感動的な美しさを生み出します。その様子が、集団性を重んじて「個」を強調せず、「和を以て^も尊^{とうと}しとなす」という日本人の価値観を表しているからだと言う人もいます。また、ほんの一〜二週間しか花開くことなく、吹雪のように舞い散る桜の^{はかな}儚さに感動を覚える人もいます。華やかに咲き乱れ、あっという間に散っていく様を武士道にたとえる人もいます。桜が美しいのは、満開時だけではなくありません。たったの10日間前後、精一杯綺麗な花を咲かせるために、あとの350日はじっと力を^{たくわ}蓄えていて、さらに枯れることなく、美しい花のま^{ひといき}ま一息に散り、しかもその散る姿までも、一番美しい時を人々に焼き付けて逝くからです。そこにこそ、桜の真価があると考えています。平安時代（794〜1185/1192年）より、特に^{ぶけ}武家に愛好されてきた理由はそこにあるのです。

日本人が桜にその民族性を見出したのか、桜が日本人の民族性に影響したのかは^{さだ}定かではありませんが、この花が日本人の心の中で大きな地位を占めていることは間違いないでしょう。花見を通じて、日本文化の奥底を感じ取ることができると、多くの外国人は言います。

東京には桜の名所がたくさんあります。中でも私がもっとも好きなのは、浅草で水上バスに乗り、水上から岸の桜を眺めることです。桜の季節になると花見船が運行され、川岸の^{すみだ}隅田公園をぐるっと一周できます。沿岸から聞こえる花見客の声がほどよいBGMになり、親しい友人と屋台で買ったおつまみを^{さかな}肴に日本酒でほろ酔い気分^{ひた}に浸りながら、他愛ない話で盛り上げる。これはなかなか^{ふぜい}風情があります。

晴れて暖かい日なら^{ばじこうえん}馬事公苑がお勧めです。都心から少し離れていることもあり、訪れる人は多くありません。週末は無料で馬に乗ったり、馬術を觀賞したりすることができます。広い敷地内で、緑の芝生とピンクの花が互いに引き立てあう景色を眺めながら散歩するだけでも気持ち良いものです。

新宿御苑や上野公園などの桜の名所は大勢の花見客で大変混みあってい

ますが、この季節ならではの日本式の宴会を見ることができ、歩き回るだけでその雰囲気を楽しめます。

もし春に日本を訪れることがあったら、ぜひお花見に出かけ、その美しい文化を肌で感じてみてください。

出典：『東京の観光』



注释

飛び交う：（自五）原意为飞来飞去，交错飞舞。文中指各媒体交替报道，争相报道。

桜風味の和菓子：特指掺有樱花花瓣制成的日式点心。

群れ咲く：（复合动词）“群れ”意为一群，一伙，小团体。文中指成片开放的樱花。

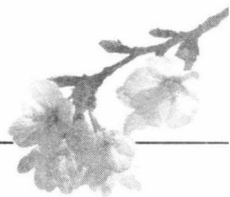
桜吹雪：（名）形容落樱如雪花在风中纷飞飘落的样子。

儚さ：（名）“儚い”的名词形式。意为短暂，变幻无常，虚幻，可怜。

焼き付ける：（他下一）原意为烧上记号，烧接在一起。文中意为印象深刻。

BGM：（名）英文 background music 的缩写。意为背景音乐。

他愛ない：（形）文中意为无顾忌地交谈、闲聊。



钟爱樱花 花开花落皆美丽

每年3~4月份，日本的媒体都会争相报道有关樱花的开花情况。人们也都饶有兴致地谈论着哪里的樱花已经盛开、什么时候到哪儿去赏花、哪家店限时出售的“樱花和式点心”好吃、天气和气温如何变化等。樱花在日本文化中有着相当重要的地位。从文学作品到流行歌曲，还有日常使用的谚语等，处处都能找到樱花的身影。

按照文化学家的定义，日本独特的赏花文化——“花見（はなみ）”由三个要素构成。一是观赏樱花园中成片开放的“群花（ぐんか）”，二是在樱花树下享用美味的“飲食（いんしょく）”，三是有聚集在一起欢闹的人群——“群集（ぐんしゅう）”。日本的赏花文化古已有之，安土桃山时代（1568—1600年），贵族们开始举行豪华的赏花会，到了江户时代（1603—1867年），赏花的习俗从贵族发展到了普通百姓的生活中。时至今日，赏花已是公司欢迎新职员、大学社团欢迎新成员时不可或缺的活动。樱花树下，人们打开便当，倒上美酒，唱歌、跳舞。本并不相识的人们轻松地打着招呼、交换食物、玩闹在一起，有时会变成一个盛大的派对。

樱花不是日本原生的植物，亚洲其他地区和欧洲也生长着樱花。但是其他地区都没有日本这样的赏花文化。那么日本人为什么对樱花情有独钟呢？对此众说不一。许多人说，没有哪种花能像樱花那样，无论是含苞欲放时的花蕾，还是争相竞开时的花朵，抑或是翩翩飘落时的花瓣，都能带给赏花人一份心灵的感动。还有人说，一朵小小的樱花虽不显眼，但在一棵树上几十万朵小花同时绽放，一棵棵樱花树又连成一片樱花林时，就会产生出难以言表的、打动人心的美。也有人说这表现出日本人注重团体、淡化个体、“以和为贵”的价值观念。樱花的花期只有一两个星期，看着如雪花般

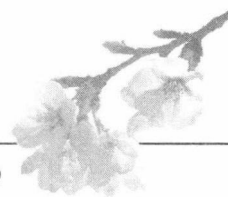
飘落的樱花，有人为樱花短暂而美丽的生命所打动。还有人把绚丽开放、瞬间即逝的樱花比做武士道。樱花之美不仅在盛开之时。为了那仅有十天左右的美丽绽放，它不惜积蓄 350 天的能量。还能在花朵尚未干枯的时候，义无反顾地飘落下来，把最美好的花景深深地留在人们心间。我认为这才是樱花真正的价值。这也是平安时代（794—1185/1192 年）以来樱花备受武士钟爱的原因所在。到底是日本人从樱花找到了自己的民族性，还是樱花影响了日本人的民族性，这个问题没有定论。但樱花在日本人心中占有重要地位，这一点却是毋庸置疑的。许多外国人都说通过“花见（はなみ）”，能够感受到日本文化的内涵。

东京有许多著名的赏花胜地。我最喜欢从浅草乘坐水上巴士，在船上欣赏沿岸的樱花。樱花盛开时节，赏花船就会运行，可以在隅田公园外围环绕一周。从沿岸的公园传来人们赏花聚会的欢笑声，不大不小的声音似飘荡的背景音乐。就着上船前在露天摊位上买好的下酒菜，品味着日本酒，在几分朦胧的醉意中，与好友随兴闲聊，别有一番情趣。

若天气晴朗、温暖，可以去马事公苑。那里离东京市中心有些距离，赏花的人不会太多，周末还可以免费骑马或欣赏马术表演。在宽阔的公园里，望着绿草与粉花相互映衬的美景，散散步就足以让人心旷神怡了。

新宿御苑或上野公园这些著名的赏花景点游人很多，十分拥挤，但在这些地方能看到唯有这个季节才能见到的日本式赏花宴会。在附近走走就能感受到欢闹的气氛。

如果有机会在春天到访日本，一定要去赏花，亲身体验这美丽的日本“花见”文化。



庶民の酒場 居酒屋ののれんをくぐってみよう

仕事帰り、同僚に「ちょいと一杯やりましょうか」と声を掛け合っていく気取らない庶民の店、それが居酒屋だ。最近^{いざかや}は少なくなったが、伝統的な居酒屋の入り口には縄でつくった“縄のれん”がかかり、看板を兼ねた赤い提灯^{ちようちん}が下がる。だから、居酒屋は今でも「縄のれん」、「赤提灯」とも呼ばれている。

16世紀の末頃^{あじみ}、味見^{はか}させて酒を量り売り^うしていた酒屋が簡単な料理も出すようになった。これが居酒屋の始まりで、江戸時代後期（19世紀初め）には、既に多くの店があったという。当時の首都・江戸は、男性人口が女性よりもはるかに多く、酒や食事を手頃な価格で出す居酒屋は独身者などにはさぞ重宝がられたことだろう。

では、現代の居酒屋ののれんをくぐってみるとしよう。東京・新宿にある「鼎」^{かなえ}。店舗の移り変わりが特に激しい新宿の繁華街にあって、36年もの長きにわたって営業を続けている、奇跡のような店である。

席に着いて、まず飲み物を注文する。最近^{しょうちゅう}はビールや焼酎も人気だが、居酒屋ならやはり日本酒だ。品書き^{しなが}には全国から集められたより抜きの地酒^{じざけ}が並び、どれを選んでいいか悩んでしまう。

「お客様から声がかかれば、そのとき召し上がっている酒を基準にして、もう少し辛いものならこれ、などとアドバイスしてさしあげますよ」と、店長の山本博文さん。

どの日本酒にどの料理が合うか、といった相談にも快く^{こころよ}応えてくれる。こうしたお店の人たちとのやり取りもまた、居酒屋の楽しみのうちな

のだ。鼎では、随時^{ずいじ}50種類以上の肴^{さかな}が用意され、壁には毛筆^{もうひつ}でしたためられた「本日のおすすめ」の紙が貼り出されている。どれもこれも旬^{しゅん}の素材を使い、酒の味を引き立てるように調理された、おなじみのメニューばかりだ。夏は、アジの刺身に冷酒、秋はサンマの塩焼きに新酒、冬は、鍋ものに温かい爛酒^{かんざけ}…といったように、季節の料理にあわせて酒を選んでみるのも楽しい。

今から20年くらい前までは、居酒屋といえば男性客のものだったが、女性の社会進出にともなって、女性客も当然のように増えた。酒と肴を楽しみながら、仲間と、時にはお店の人たちと話に花を咲かせる。

夜がふけるにつれ、和やかな雰囲気^{つね}がぐんと高まっていくのが、いい居酒屋の常だ。

居酒屋は、胃袋を満たすための単なる飲み食い^{つね}の場とは違う。慌ただしい職場や家庭を離れ、ゆっくりと落ち着いて本来の自分に戻る場でもあるのだ。そんなひと時を求めて、昔も今も人は居酒屋ののれんをくぐる。

出典：『につぼにあ』No.44



注釋

気取る：（自五）装腔作势，摆架子。文中的“気取らない”意为朴实无华、平民化。

重宝がられる：“重宝がる”的被动形式。文中意为被（单身的人）认为很方便，受到（单身的人）特别的喜爱。

のれんをくぐる：（连语）从门帘下钻过。文中意为掀开门帘。

話に花を咲かせる：（惯用）兴致勃勃地交谈，谈论得非常热闹。

胃袋を満たす：（连语）填满胃，吃饱。

百姓的酒馆 掀开“居酒屋”的门帘



“走，喝一杯去！”下班路上，同事间结伴常去的是平民化的酒馆——“居酒屋（いざかや）”。传统的居酒屋门口都挂有用绳子做的绳帘和红色的灯笼，红灯笼也是小酒馆的招牌。尽管近年来这样的居酒屋已经很少了，但如今居酒屋有时仍被叫做“縄のれん（绳帘）”或“赤提灯（红灯笼）”。

酒馆原来都是让顾客品尝一口之后论斤两零售酒的，到了十六世纪末，一些酒馆开始为酒客提供简单的佐酒菜肴，这就是最早的居酒屋。据说到了江户时代后期（十九世纪初），日本已经有了很多这样的酒馆。在当时的首都江户，男性人口远远多于女性人口，酒水饭菜价格适中的居酒屋想必备受单身男人们的青睐。

下面让我们掀开现代居酒屋的“门帘”看个究竟吧。这家名叫“鼎（かなえ）”的居酒屋位于东京新宿。在各种店铺走马灯似地出现又消失的新宿繁华街区，“鼎”坚守了三十六年之久，可谓是个奇迹。

就座后，首先是点饮料。现在啤酒和烧酒人气也很旺，但是到了居酒屋还得喝日本清酒。酒单上写满了从日本各地精选的地方酒，品种多得不知点哪一种才好。

店长山本博文告诉我们：“如果顾客有要求，我们可以以顾客正在喝的酒为基准，推荐其他口感的酒品。比如稍微辛辣一点的酒是这一种，等等。”

如果想知道什么样的清酒与什么样的菜肴相配，店员也会热情地为你参谋。顾客与店员之间的这种交流也是居酒屋的乐趣之一。在酒馆“鼎”里，随时都备有五十多种佐酒菜供客人选用，店内的墙壁上贴着用毛笔书写的“今日推荐”。所有菜肴都是使用时令食材烹调出的常见的助酒菜。夏天，有竹荚鱼的生鱼片配凉酒；秋天，有盐烤秋刀鱼配新酒；冬天，有火锅菜肴配温酒……这种时令菜肴

配清酒的搭配不失为又一种乐趣。

在二十多年前，居酒屋是男性顾客光顾的地方。随着女性社会地位的不断提高，到居酒屋的顾客中理所当然地增加了不少女性。品味着佳酿和肴馐，跟朋友或是店里的人们畅聊……

夜，渐深，居酒屋里，融融的气氛渐浓……这就是居酒屋常见的光景。

居酒屋，不同于只图个酒足饭饱的一般餐饮场所，它是可以摆脱职场与家庭的繁杂、静静地回归自我的地方。为寻求这一刻时光，无论过去还是现在，人们总会去掀开居酒屋的“门帘”。